石川県立美術館だより

BIJUTSUKAN DAYORI

第367号　平成26年5月1日発行

企画展

新紀元 革新の視座 ―加賀谷武、木下晋、久世建二、庄田雷寛、蓮田修吾郎の創造―

左から
加賀谷武　空間生態 ウィーン2
木下　晋　祈りの塔
久世建二　痕跡シリーズ2004－2
庄田雷寛　通り過ぎる街角
蓮田修吾郎　銅鋳モニュメント ある都市空間のために

■ 春の優品選（後期） ―花鳥の美―

■ 能面と能装束

■ 優品選 ―工芸―

■ 優品選 ―絵画・彫刻―

- 友の会バスツアー募集
- 平成26年度の土曜講座
- 各地で注目の展覧会
- 5月の行事予定
- 所蔵品紹介

1F 企画展示室
2F 第3・4展示室

学芸員の眼

「革新の視座」展は展示室五室とエントランスホールから一階ロビー、そして歴史博物館との間の本多の森公園をも用いた大規模な展示を行います。第3展示室に久世建二、第4展示室に加賀谷武、第7展示室に木下晋、第8展示室に庄田雷寛、第9展示室に蓮田修吾郎、そして一階ロビーは久世のツインタワー人型と加賀谷のロープのコラボレーション、さらに、本多の森公園から美術館までの大規模な加賀谷のロープ・インスタレーションなど、これまでの当館のイメージとはいくぶん異なる展覧会と思われるかもしれません。一つの平面や立体、一つの器や箱に凝縮された世界を当館はご覧いただいてきました。むろん今回の「革新の視座」もそのスタンスを踏襲していますが、加えて美術館に至る空間、エントランスから展示室に至たる空間を逍遙していただき、そして各作家のダイナミックな力作を存分にご鑑賞いただくという構成です。枠におさまらぬ強烈な個性を持った五人の世界をお楽しみください。

―加賀谷武、木下晋、久世建二、庄田雷寛、蓮田修吾郎の創造―

石川の美術工芸を語るとき、伝統と写実または具象性という言葉が表に出ることは否めませんが、金沢美術工芸大学や各種の工房では新しい造形を求める作家達が研鑽を積み、旺盛な活動を展開していることも事実です。本展では「伝統と革新」、「絶えざるメッセージ」をテーマとし、新たな表現世界を求めて創作を続ける、そして続けた、石川ゆかりの作家五名による絵画・造形作品をご覧いただきます。

出品作家は、空間造形の加賀谷武（かがやたけし）、鉛筆によるリアリズムを極める木下晋（きのしたすすむ）、陶による造型に挑む久世建二（くぜけんじ）、カラフルな線と色面で世相を描く庄田雷寛（しょうだらいかん）、金属造型の先駆者で日独の文化交流に努めた蓮田修吾郎（はすだしゅうごろう）の五作家です。

加賀谷は小矢部市出身。金沢美術工芸大学で金工を学んだ後、フレームのみの作品や、室内や屋外で丸太を木枠で囲むなど、実と虚をテーマに前衛的な作品を発表し、近年はロープを用いたインスタレーションで、屋内外の空間を新たに構成し直すという大規模な創作を展開しています。

木下は富山市出身で、今年三月まで金沢美大大学院教授を務めました。独立した技法としての鉛筆画を確立し、ペンシルワークと名づけ、対象の深層に迫るリアリズムの絵画空間を表出します。

あわら市出身の陶芸家で、今年三月まで金沢美大学長を務めた久世は、陶による造型の可能性を「痕跡」や「落下」などの各テーマのもとに追求し、アメリカの九・一一テロ以後、十字架型や人型の作品数十体によるインスタレーションを行っています。

庄田雷寛（常章）はカラフルな色面と思考の軌跡を示すような線がからみあう平面構成で、現代の世相を描きます。鳥獣戯画や信貴山縁起絵巻、浮世絵、漫画など、日本に脈々と続くひょうげた線画の世界に連なるものと言えます。

木下晋　休息

当館企画展

新紀元 革新の視座

4月20日(日)～5月18日(日) 会期中無休

金沢出身の蓮田は県立工業学校卒業後、東京美術学校に進んで鋳金を学びますが、その後の歩みは、伝統的な工芸の枠を超え、金工が用を離れた純粋美術として成り立つことを実証し、金属造型の世界を確立するものでした。

伝統と具体性を好む石川の美術土壌は、創作にあたり確かな手技と優美な仕上がりを求めます。本展出品の作家達はこの要望に応えつつ、既成概念を超えた創造を成し遂げ、絶えずメッセージを社会に向けて発信しています。蓮田の公共の場に建てられた巨大モニュメント、九・一一そして、三・一一に呼応する加賀谷、木下、久世、庄田の作品は、時代と共に歩む作家の姿を明示しているといえましょう。

各作家の創作の軌跡を、企画展示室三室と二階コレクション展示室の第3、第4展示室、一階ロビー、そして本多の森公園でのロープ・インスタレーションなどにより、石川美術の重層性をご覧いただきます。

会期中のイベント

■講演会

会　場　石川県立美術館ホール
定　員　二〇九名 先着順・申込不要
時　間　午後1時30分～3時

・4月20日(日)
講師：久世建二氏「土のかたち―創造の現場から」

・5月3日(土・祝)
講師：木下晋氏、松居直氏(福音館書店相談役・児童文学者)
「絵本作家 木下 晋」

・5月6日(火・休)
講師：嶋崎丞(当館館長)「蓮田修吾郎の世界」

・5月18日(日)
講師：庄田雷寛氏(常章)「画鬼(ガキ)」

■ワークショップ

・5月11日(日)
講師：加賀谷武氏「空間をきる」※空間とは何かを考察します。
会　場　美術館講義室
定　員　三〇名
時　間　午後1時30分～3時
往復ハガキでお申込ください。5月2日(金)必着
・往信ハガキの宛先　〒九二〇―〇九六三 金沢市出羽町二―一
石川県立美術館　加賀谷武ワークショップ係宛
(裏面に申込者の郵便番号・住所・氏名・電話番号)
・返信ハガキの宛先　申込者の郵便番号・住所・氏名(裏面は白紙)

久世建二　落下91－08

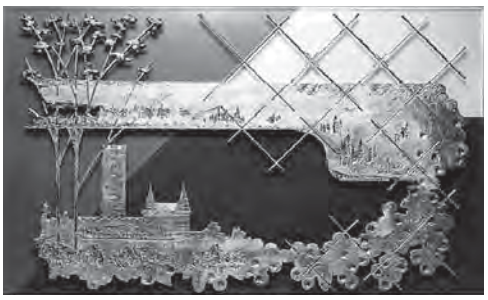
◇観覧料

	個人	団体
一般	一、〇〇〇円	八〇〇円
大学生	六〇〇円	五〇〇円
小中高生	三〇〇円	二〇〇円

※当館友の会会員は会員証の提示により団体料金に割引されます。

加賀谷武　空間の表情

庄田雷寛　ゴルビー



蓮田修吾郎　白銅浮彫「豊穣なるライン」

前田育徳会尊經閣文庫分館

春の優品選（後期）

－花鳥の美－

4月20日（日）～5月18日（日） 会期中無休

例年のことですが、日本人の心を一喜一憂させる「桜」の季節が過ぎゆき、鮮やかな新緑が青い空に映える初夏へと移り変わろうとしています。三月から始まった絵画や工芸品に描かれた花鳥の世界の特集展示ですが、後期を迎えました。今月号で紹介する文様は「牡丹唐草文」の作品です。牡丹はその豪華で美しい姿から「百花の王」として愛でられ、「富貴」の象徴として絵画や工芸品に描かれてきました。牡丹は蔓植物ではありませんが、唐草文と組み合わせることで、牡丹の持つ富貴や吉祥的な意味合いが永続するようにという願いが、こうした表現を生み出してきました。名物裂（めいぶつぎれ）（主に中国の宋・元・明・清の時代に製織されて日本に輸入された染織品）のなかでも「金襴」に、「牡丹唐草文」が最も多く、またそのバリエーションも様々です。金襴は金箔糸を用いて文様を織り出した織物で、中国では織金と呼ばれ、宋代に始まったと考えられています。その豪華さから名物裂の中で最も尊ばれています。文様は花の大きさにより「大・中・小」があり、蔓には一重・二重、さらには地文様の部分にも金箔糸を用いた金地金襴など、その表現はまさに牡丹のごとく豪華な世界です。日本人の牡丹への憧憬は、中国文化への憧憬にほかなりませんが、「深見草」や「二十日草」という日本独自の呼び名が付けられて、和歌にも詠まれています。

入子菱繋ぎ地二重蔓牡丹唐草文様金地金襴

第2展示室

能面と能装束

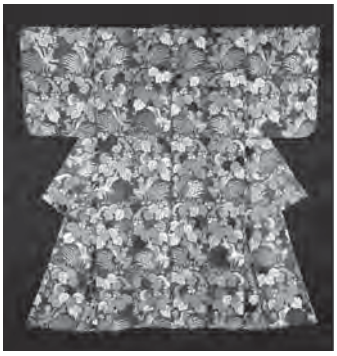
4月20日（日）～5月18日（日） 会期中無休

金沢市の無形民俗文化財に指定されている大野湊神社の寺中神事能は、毎年五月十五日に行われます。明治維新の混乱期に一時中断はしましたが、天正十四年（一五八六）より続き、今年で四〇五回を数えます。

古くは佐那武社と称された大野湊神社にて、古来より行われていた舞楽が神事能として、復活したのは、慶長九年（一六〇四）のこと。加賀藩二代前田利長より、合戦勝利のお礼として、神事能を毎年行うよう言い渡されたことによります。はじめ八月十五日に行われていましたが、「田畑が見物人によって荒らされる」「秋雨に悩まされる」などの理由から、四月十五日（＝旧暦 現在の五月十五日頃）に開催日が変更されたのです。（『大野湊神社文書』より）

こうした神事能は、金沢の町人として本業を持ち、その一方で能も務める「町役者」によって支えられました。金沢において能が盛んであったのは、藩による保護や藩主の愛好はもちろん、この町役者の層の厚さにあると指摘されています。

今年は、大野湊神社の神事能の時期にあわせて、特集展示「能面と能装束」を開催します。本館所蔵の能面と能装束のほとんどは、前田家旧蔵のものですが、本特集では、加賀藩の能の歴史とあわせてご紹介します。また、会期中の五月十七日に行う「土曜講座」において、近世から近代に至る金沢の能楽史の説明と、展示室にて作品の解説を行う予定です。



重文　緑地桐鳳凰文唐織

第5展示室

優品選
ー工芸ー

4月20日(日)～5月18日(日) 会期中無休

近現代工芸の展示室では、石川県立美術館の所蔵品・寄託品から選りすぐった優品を約四十点展示します。工芸がさかんな石川県では、日展や伝統工芸展などで中心となって活躍する作家も多く見られます。展示作品の中から、その一人である十代大樋長左衛門氏の「飾りのある花器」を紹介します。

平成二十三年に文化勲章を受章した大樋氏による本作は昭和五十七年、第二十一回日本現代工芸美術展に出品されました。氏は同年に日展の文部大臣賞を受賞した「柿釉飾りのある花器 歩いた道」(東京国立近代美術館蔵)を制作しており、口縁の二点の「飾り」はほぼ同じ形ですが、「歩いた道」が細長くすっと伸びるような形であることに対して、本作は厚みがあり丸く重心が低い形です。

また「歩いた道」は上部のみ白釉であとはマットな質感の柿色の釉薬に覆われたシンプルな意匠ですが、本作は全体にやや灰色がかったきめの粗い白釉がかかり、下部三分の一に濃紺の刷毛目を入れ、水引のような細い朱の線を数度巡らせることで、重厚な器体に軽快な動きが生まれています。さらに二つの飾りの他に、水指のような耳も付いており、氏が造形作品と並行して制作していた茶道具との親和性を感じさせます。

本年の現代美術展でも、変わらぬ存在感を見せていましたが、違った方向性の作品を続けて制作する、氏のエネルギーは今も健在です。本作を初めとする工芸の優品をお楽しみ下さい。

「飾りのある花器」十代大樋長左衛門
昭和57年　第21回現代工芸美術展

第6展示室

優品選
ー絵画・彫刻ー

4月20日(日)～5月18日(日) 会期中無休

この『美術館だより』がお手許に届く頃は、既に桜も散り、目にも瑞々しい新緑の季節と思われます。同時期開催の企画展「新紀元 ―革新の視座―」の関係で日本画・洋画・彫刻部門は第6展示室の一室のみの展示です。さて企画展は石川県ゆかりの五作家による革新的で実験的な創造の軌跡をご鑑賞いただくものですが、本展は館蔵品を中心に叙情性溢れる作品を中心とするもので見覚えのある作品ばかり。しかし企画展鑑賞後ご覧いただき改めてその魅力を再認識いただけるのではないかと願っています。以下、主な出品を紹介します。

日本画:石川義筆「巣造りの頃」。春は生き物にとっても新たな生命を育む季節です。温んだ水辺ののんびりした雰囲気の一シーン中にも、刻の移り変わりが静かに秘められているようです。

洋画:吉田冨士夫筆「交霊術 HARP」。幻想的で文学的なテーマの作品です。舞台設定は霊媒師の奏でるハープによる降霊の場面を表すもので、明るくカラフルな色合は呪術のイメージよりも現代的な感覚さえ感じさせています。

彫刻:畝村直久作「婦人の首」。本品は第六回日展特選受賞作で作者の出世作ともいえるものです。オーソドックスな作風で物静かな雰囲気の中にも凛とした気品を漂わせる作品となっています。小さいながらも観る者の心に残る確かな存在感を示しています。

石川 義 「巣造りの頃」 平成7年

平成26年度 友の会

第12回 バスツアー参加者募集

上越のこころ ―高田・春日山を訪ねて―

期　　日／平成二十六年五月二十五日(日)
集合時間／午前七時
発　　着／金沢駅西口
参加代金／友の会会員　七、八〇〇円
　　会員以外　八、一〇〇円
募集定員／四十四名

◆見学地

【浄興寺】親鸞ゆかりの寺院で、美しい彫刻が施された御本廟には親鸞の頂骨を安置しています。重文の本堂や、真宗にまつわる寺宝を有しています。

【小林古径記念美術館】「小林古径と上越ゆかりの作家展」を開催中です。移築復原された数寄屋造りの小林古径邸も見所のひとつです。

【林泉寺】上杉謙信の祖父が建立した寺院で、謙信が少年期に文武の修行を積んだことでも知られます。宝物館には上杉家ゆかりの品々が展示されています。

【春日山城跡・春日山神社記念館】上杉謙信の居城として有名な春日山城の遺構と、謙信の資料をあわせてご覧いただきます。

◆申込方法

往復はがきに左記の事項を記入し、ご応募ください。応募者多数の場合は抽選になります。

①往信はがきの裏面に「美術館バスツアー希望」と明記し、氏名・年齢・性別・郵便番号・ご住所・お電話番号・会員番号（友の会会員のみ）をお書きください。

②返信はがきの表面には返信先をはっきりとお書きください。

③返信はがきの裏面には何も書かないでください。

◆応募先

〒九二〇―〇九六三　金沢市出羽町二―一
石川県立美術館バスツアー係

応募締切／五月九日(金)必着

※応募者一名につき、往復はがき一通でご応募ください。

※春日山城跡では山道を登る行程が含まれます（片道二〇分ほど）。脚に自信のない方はご注意ください。

各地で注目の展覧会

ゴールデンウィーク期間中、お出かけ先の美術館で優れた展覧会に出会うのは旅の楽しみの一つです。各地の展覧会をピックアップしてみました。

■奈良国立博物館

4月5日(土)―6月1日(日)
「武家のみやこ鎌倉の仏像　迫真とエキゾチシズム」
奈良市登大路町五〇

■湯木美術館

4月1日(火)―5月11日(日)前期
5月14日(水)―6月29日(日)後期
「海を渡ってきた茶道具―名物記・茶会記に現れた唐物・南蛮・高麗―」
大阪市中央区平野町三―三―九

■サントリー美術館

3月29日(土)―5月11日(日)
「のぞいてびっくり江戸絵画―科学の眼、視覚の不思議」
東京都港区赤坂九―七―四 東京ミッドタウン ガレリア三階

平成26年度

土曜講座について

平成二十六年度も当館学芸員による土曜講座を行います。五月十日にスタートし計二十四回を予定しています。土曜講座は毎年、自由テーマと共通テーマを設けていますが、本年度の共通テーマは年度末に北陸新幹線開通を控えていることを念頭に「石川県の魅力発信」として、各担当学芸ジャンルに関係する講座を行います。また自由テーマとしては各学芸員が日頃からの調査研究事項の紹介や、講座開設時に開催の企画・特別陳列・特集など各展示の解説や発展についてなどの講座です。申込不要、聴講無料です。どうぞお気軽にご参加いただけますよう御案内致します。以下、本年度の七月末までの予定です。

回	月日	内容（予定）	担当学芸員
第1回	5月10日	「仏教の興隆と白鳳彫刻」	谷口　出
第2回	5月17日	加賀宝生とは？ ―能面と能装束―	村上　尚子
第3回	5月31日	江戸時代の金沢 ―城下町を歩く―	村上　尚子
第4回	6月14日	工芸作家と古典研究	寺川　和子
第5回	6月21日	系譜で見る石川の日本画	前多　武志
第6回	7月5日	石川県の銅像	北澤　寛
第7回	7月12日	石川の油絵 ―明治～平成	二木　伸一郎
第8回	7月19日	美術にみる色・赤（四）	西田　孝司
第9回	7月26日	尊経閣文庫の名品 ―国宝・類聚国史―	高嶋　清栄

ミュージアムショップ通信

今回ご紹介するのは加賀友禅の小物各種です。国宝「色絵雉香炉」をデザインした「パネル額」、手描き友禅の「名刺入れ」、そしてヨーロッパで注目を集めているという世界一軽く薄い『天女の羽衣』という繊維を用いた「ポケットチーフ」です。いずれも少々値が張るようにお思いになるかもしれませんが、本物の加賀友禅の普段使いがあなたにもたらす演出効果は、返ってお値打ちになるのでは。

左から「パネル額」8,400円　「名刺入れ」14,700円
「天女の羽衣 ポケットチーフ」8,400円

五月の行事予定

■土曜講座　午後1時30分～ 美術館 講義室　聴講無料

10日（土）	仏教「仏教の興隆と白鳳彫刻」	谷口　出
17日（土）	加賀宝生とは？ ―能面と能装束―	村上尚子
31日（土）	江戸時代の金沢 ―城下町を歩く―	村上尚子

■革新の視座関連行事

■講演会　午後1時30分～ 美術館ホール　申込み不要　聴講無料

4月20日（日）	土のかたち ―創造の現場から	講師　久世建二氏
5月6日（火・休）	蓮田修吾郎の世界	講師　嶋崎丞 当館館長
5月18日（日）	画鬼（ガキ）	講師　庄田雷寛氏

■対談　午後1時30分～ 美術館ホール　申込み不要　聴講無料

5月3日（土・祝）	絵本作家　木下 晋	木下晋氏・松居直氏

■ワークショップ　午後1時30分～ 美術館講義室
※往復ハガキで申し込み、定員30名。5月2日（金）必着。

5月11日（日）	空間をきる	講師　加賀谷武氏

カーネーション図皿　昭和29年（1954）　口径44.9cm 底径24.7cm 高さ8.9cm　所蔵品紹介242

中村　研一　なかむら・けんいち　明治28年（1895）～昭和42年（1967）

わが国の洋画界の重鎮として知られる作者は、明治二十八年福岡県に生まれました。大正四年に上京、本郷洋画研究所で岡田三郎助の指導を受けて東京美術学校に進学します。九年同校西洋画科を卒業、この年帝展に初入選を果たしました。十年、昭和三・四年に出品した作品は特選となり、十八年に朝日文化賞を受賞。戦後は日展の理事などを歴任し、二十五年に日本芸術院会員に推挙されました。石川とのゆかりも深く、当県を代表する洋画家・高光一也の師であり、また昭和二十八～三十一年にかけて九谷の名工・初代徳田八十吉の窯で絵付けを行い、百点を超える制作を行ったことでも知られています。

器面一杯にカーネーションの花々を描いた本作は、洋画家の余技とはいえない、見事な表現をみせています。青、緑、紫、黄、赤の九谷五彩を駆使して、可憐な花の姿を画家ならではの生き生きとした筆致でとらえています。陶芸の絵付けに使う釉薬は、油絵具と違って焼き上がるまで本来の色を見出すことはできません。しかしここには、九谷伝統の技を身につけた画家のすぐれた感性が息づいています。鮮やかに発色している色釉はバランスよく組み合わされ、口縁部にほどこされた鋸歯状の文様と相まって、いっそう華やぎを感じさせているのです。

次回の展覧会

前田育徳会 尊經閣文庫分館	第2展示室
前田利長没後400年 **百万石大名の装い** ―武具・甲冑・陣羽織―	**城下街金沢** ―武士と人々の暮らし―

会期：5月22日（木）～6月15日（日）

1F企画展示室（7～9展示室）・2Fコレクション展示室（3～6展示室）

第45回 日展金沢展　会期：5月24日（土）～6月15日（日）

ご利用案内

コレクション展観覧料
一　般　360円（290円）
大学生　290円（230円）
高校生以下　無料
※（　　）内は団体料金
毎月第１月曜日はコレクション展示室無料の日（5月は5日）

今月の開館時間
午前9：30～午後6：00

カフェ営業時間
午前10：00～午後7：00 年中無休

5月の休館日
19日（月）～21日（水）

広告
毎週水曜日は
Meiカード ポイントプラスデー
Meiカード通常ポイント ＋ 3% ポイントプラス
※催事場、地階食品売場などやご奉仕品は、通常通りのポイントとさせていただきます。詳しくは売場係員におたずねください。
MEITETSU MIZA めいてつ・エムザ
金沢 むさし TEL（076）260-1111（代）
www.meitetsumza.com
10時→19時30分（地階レストラン街・書籍は21時まで）

石川県立美術館だより
第367号〈毎月発行〉
2014年5月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町２番１号
Tel：076(231)7580
Fax：076(224)9550
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/